

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No184

新著の紹介(コーナー)

『コトのデザインー発想力を取り戻すー』

山川修先生 (Safeology研究所代表・福井県立大学名誉教授)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

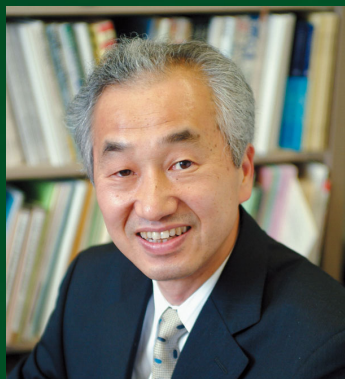
学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

(ご紹介)



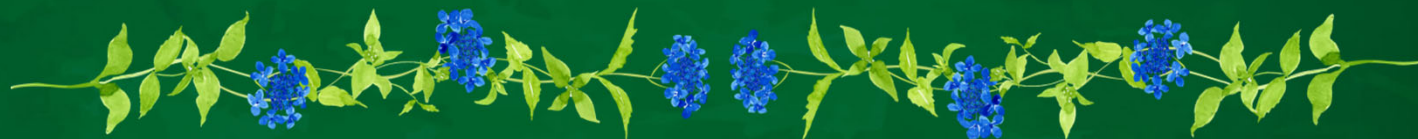
山川 修

やまかわ おさむ

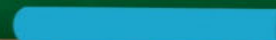
Safeology研究所代表・福井県立大学名誉教授

名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程（物理学専攻）修了、理学博士。

その後、高エネルギー物理学研究所、日本ビジネスオートメーション（現、東芝情報システム）、福井県立大学を経て、現在、Safeology研究所代表。



Safeology研究所では「安心をデザインする」をキャッチフレーズに、教育、健康、ビジネスの3つの分野で、「安心」が個人や組織に形成された際の効果や原理の解明、「安心」にアクセスするための手法の開発、および個人に対する講座や組織に対する支援の提供を行っている。





谷内真之助・山川修 (2023). コトのデザイン
—発想力を取り戻す— 春風社



- 第1章 なぜ教育にコトのデザインが必要か
- 第2章 コトのデザインとは
- 第3章 コトのデザインを授業のなかに組み込む
- 第4章 発想の基本
- 第5章 コトのデザイン演習

「コトのデザイン実践講座」 の無料体験WSのお知らせ

- **コトのデザイン実践講座**とは
 - 『コトのデザイン』を3ヶ月かけ体験的に学ぶ講座
 - ビデオ学習と対面でのワークを交互に繰り返す反転学習形式
 - 2023年9月末より第4期開始予定
- **コトのデザイン実践講座の無料体験WS**とは
 - コトのデザイン実践講座を少し体験するWS
 - オンライン（Zoom）で実施
 - 1回目：7月13日（木）20:00～21:30
 - 2回目：8月10日（木）20:00～21:30
 - どちらも同じ内容（ワークのテーマは変える予定）
 - 参加無料，定員50名，要申込
 - 今回の参加者には後程，メールで申込先をお知らせします
- 詳細は「[safeology](#)研究所」で検索をしてください。

それではご覧ください

『コトのデザイン』

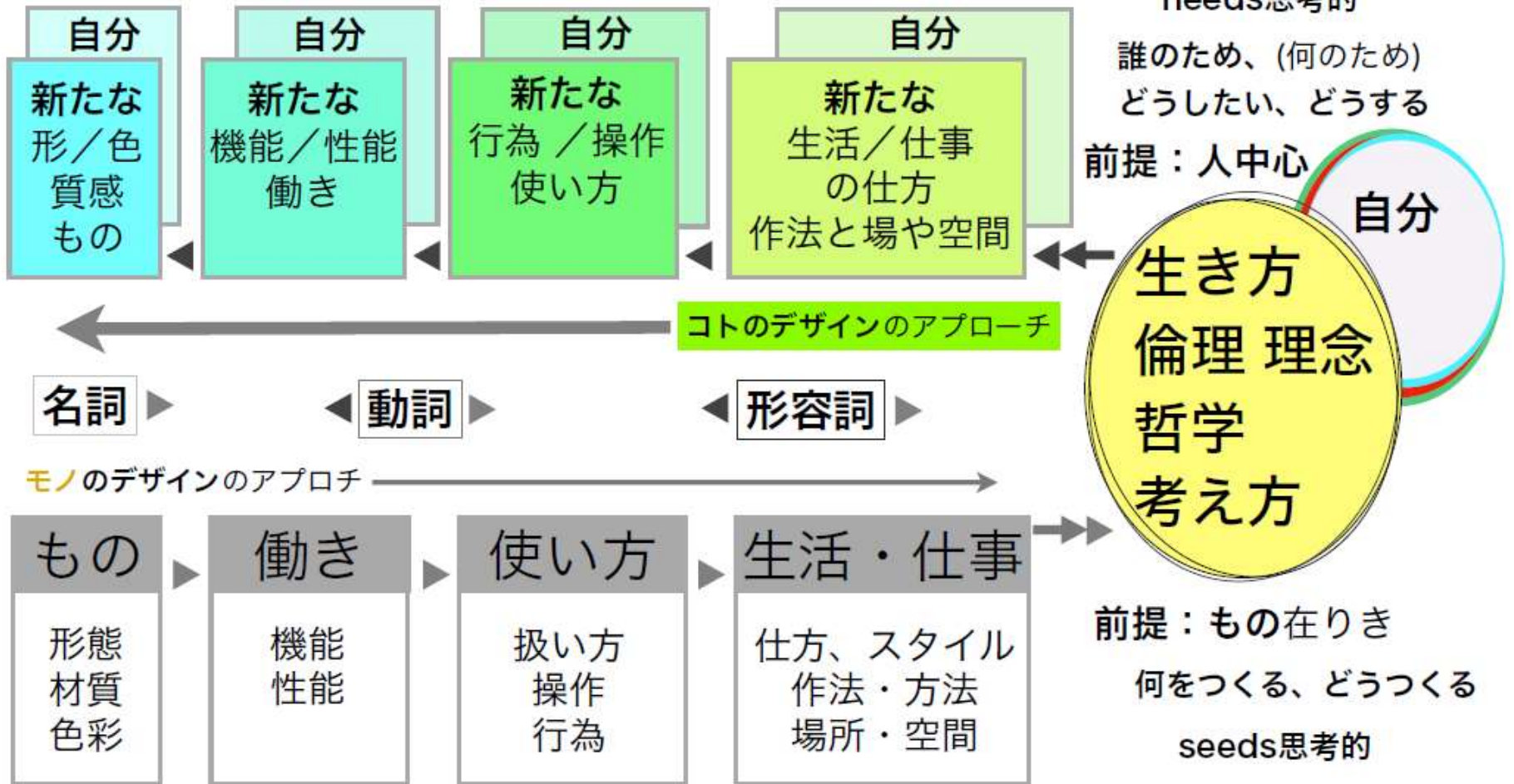
山川 修

Safeology研究所

safeology.lab@gmail.com

コトのデザインとは

関係、関わりから



なぜ『コトのデザイン』を 教育の文脈においたのか

- デザイナーが日常的に使っているアイデア出しや発想の方法論（コトのデザイン）を一般の人でも使えるようにしたいという思いから
- コトのデザインは、仕組みや関係性のデザインなので、どんな仕事をしている人にでも関係してくる
- コトのデザインの方法論は、教育の今後の方向性を考える上で、大きく貢献することができると考えたため

教育の今後の方向性 1

OECDラーニング・コンパス

変革をもたらすコンピテンシー

- ・ 新たな価値を創造する力
→ **新しい発想での問題定義**
- ・ 対立やジレンマに対処する力
→ **複数の視点から観る複眼的思考**
- ・ 責任ある行動をとる力

コトのデザインでは、複数の発想をクロスさせ、新しい発想から、自分が抱えている課題の再定義を行います（**横方向の視点の展開**）。

また、1つの課題を、個人、地域、組織、国、地球レベルといった異なった視点から見て、課題の全体像を把握するといったことも行います（**縦方向の視点の展開**）。



教育の今後の方向性 2

U理論 (オットー・シャーマー)

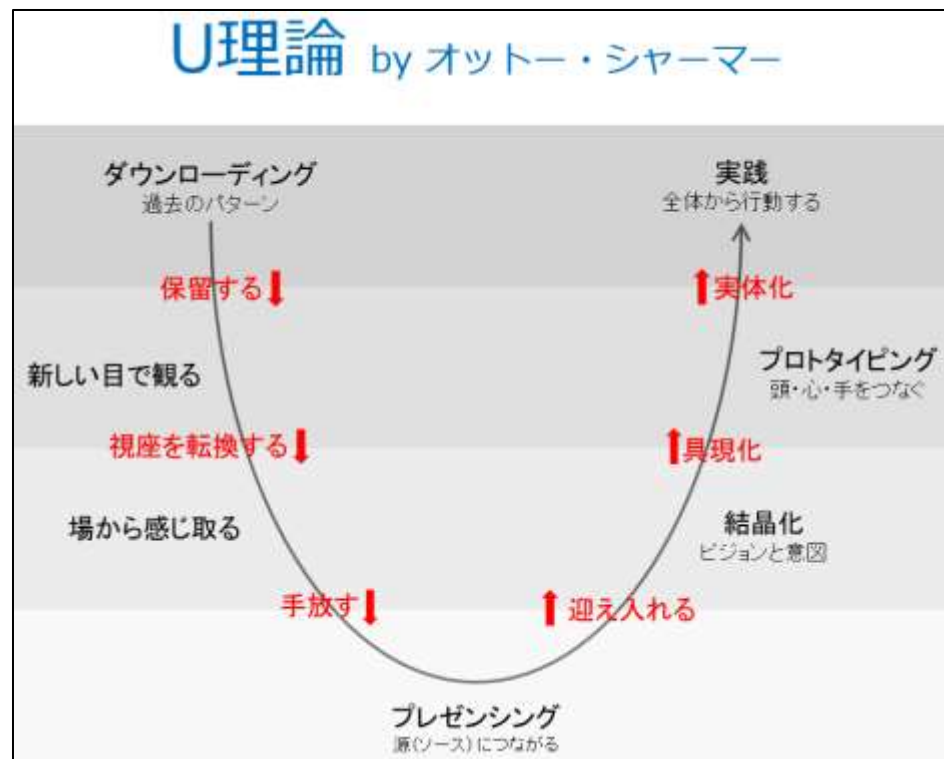
出現する未来から学ぶ

・過去の延長線上ではない変容やイノベーションを起こすための原理と実践の方法論 = **新たな価値の創造**

・ **プレゼンシング**が重要

コトのデザインのプロセスは、U理論のプロセスと同じ（谷内談）。

「**保留する**」「**視座を転換する**」「**手放す**」といったプロセス（U理論の下降のプロセス）は、現在の教育の中ではほぼ語られていない。



教育の今後の方向性 3

拡張的学習論 (エンゲストローム)

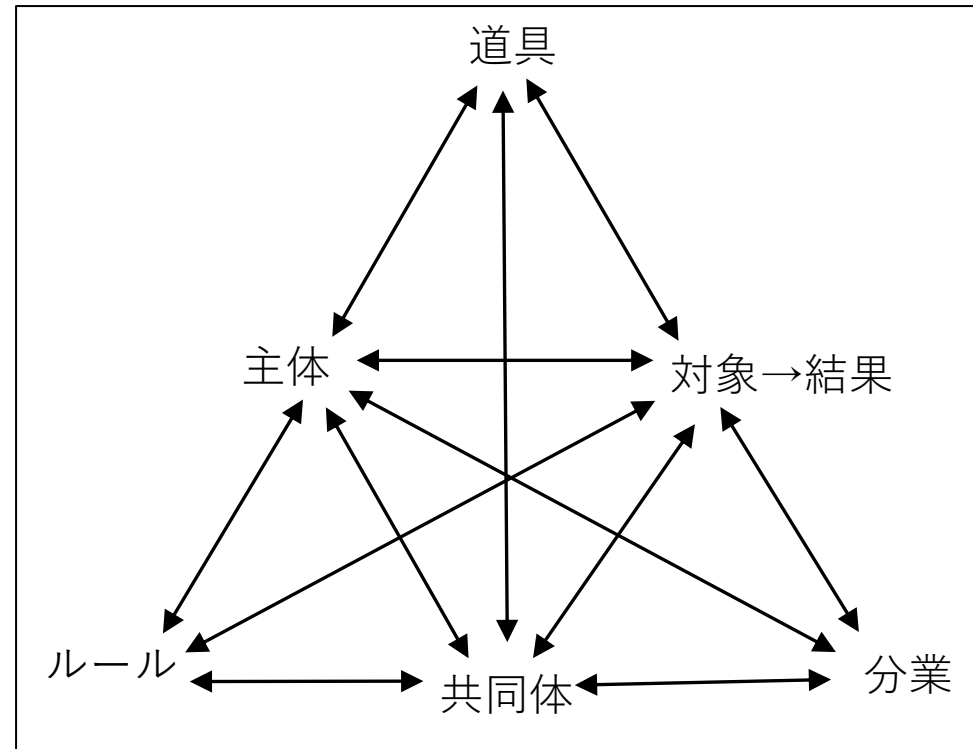
いまだここに無い何かを学ぶ

[学習理論の変遷]

行動主義→獲得メタファ (認知主義) →参加メタファ (状況的学習論) →知識創造メタファ

拡張的学習論は知識創造メタファ、
ベイトソンの「学習Ⅲ」に相当

コトのデザインの「多様な視点=人間活動の構造」「常識を疑い自由に発想する=学習Ⅲ」の2点が、拡張的学習論との共通点



人間活動の構造

教育の今後の方向性 4

3つの理論・提案を統合的に見る

- U理論
 - 出現する未来から学ぶ
- 拡張的学習論
 - 学び手は、いまだここに無い何かを学ぶ

過去から学ぶ
のではないかも

- ラーニング・コンパス
 - エージェンシーと共同エージェンシー
- 拡張的学習論
 - 変革力のあるエージェンシー
 - 新しい活動パターンの形成は、集団的で分散型のエージェンシーを必要とする

エージェンシー
は主体ベース
ではなく
システムベース
なのかも

コトのデザインのプロセス

